



為石小学校の合言葉 「ためし 最高! ~ 地元で学び 地元を活かし 地元とともに行動する子ども ~」



学校だより

ためし

- 楽しく めあてをもって しっかり学ぶ
- 正しく めあてを しっかり守る
- たくましく めあてに向かって しっかり鍛える



←HPを登録
してください。

令和6年4月15日号

文責 上久木田雄二



お膳立て

平成の中ごろから、「子どもが外で遊ばない」とか、「外で遊んでいる子どもの姿を見かけない」といった地元の方の話を良く耳にするようになりました。

ガキ大将が存在し、約束もせぬまま近くの仲間が近くの公園に集まり、独自のルールを決めながら遊ぶ子どもたちの姿は、もう過去のものであり、取り戻せないものになってしまった感じがします。

学校で、「縦割り活動」や「縦割り遊び」「全員遊び」などが積極的に取り入れられたのも同じ時期で、異年齢集団の交流や遊び方の指導という目標が掲げられてきました。

いつからか誕生日やクリスマスのプレゼントに購入されるものの上位がゲームソフトとなりました。家庭用ゲーム機が各家庭に複数台準備され、ゲームが親子の共通の趣味になる時代が訪れました。

インターネット環境が強化されるに伴い、子どもたちの動画視聴時間も爆発的に増えました。

オンデマンドで、短時間の番組を何度も見返す習慣が、子どもたちを一層外遊びから遠ざけました。

ゆとりの時代が終わり、学校から帰る時刻は16時になり、帰宅時刻も17時(季節によっては18時)に制限されています。

子どもたちの塾通いや習い事も増え、放課後も

毎日忙しい日々を過ごしている状況も理解できません。

こうして子どもたちは、いつの間に外で遊ぶことをしなくなりました。

子どもたちへの影響は、外遊びをしなくなっただけではないのです。

自然発生的に子どもが集まり、下級生に配慮しながらルールを決め、何となく遊びがはじまる過程を子どもたちは知りません。

子どもたちは、遊びや息抜きの仕方まで大人にお膳立てされ、誘導されている。隅から隅まで大人の都合で形成された環境で過ごすことを余儀なくされている。

(内外教育7151号・p20)

忙しい毎日は、大人の時間軸で計算され、子どもたちまでも急かされるように生活していたことに気づきました。

内外教育には、次の言葉が続きます。

子どもには、大人の影が差さない時間が必要だ。

子どもには子どもの世界があります。子どもは、いずれ自分たちの世界観で生き抜かなければいけないときがきます。

必要以上に構いすぎたり、関わりすぎたりすることは、子どもの世界を壊してしまう恐れがあるのだと思います。

親の知らない子どもの姿や子どもの世界があることは不安ですが、当然のことだと自覚する覚悟も必要なのです。

